

別 冊

令和 7 年度足立区地域包括支援センター

地域ケア会議実施報告書

足立区 医療介護連携課 医療介護連携推進係

は じ め に

地域ケア会議は、平成23年6月の介護保険法改正時に関係者との連携努力義務が明記されたことにより、高齢者が医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるための包括的支援ネットワークである「地域包括ケアシステム」を実現させるための重要な手法の一つとして位置づけられました。

足立区では地域包括支援センターがこの会議の主催者となり、地域の町会・自治会関係者、医療・介護の専門職、NPO、行政職員等の協働のもと、次の5つの目的や役割を持って平成25年度から開催しています。

- ① 高齢者の個別課題の解決を図る
- ② 地域の専門職や住民等の支援者によるネットワークを構築する
- ③ 個別ケースの課題分析等を積み重ねにより、地域に共通した課題を明確化する
- ④ 共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくりにつなげる
- ⑤ 介護保険事業計画への反映等の政策形成につなげる

また、近年、要支援者を中心とした軽度者の増加傾向が顕著となっていることから、自立支援・介護予防の観点から検討に取組み、さらには、新たな資源開発や政策形成につながるような体制構築が必要であるとして、「あだち人生いきいき会議（東京都事業名：自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議）」を令和3年度からブロック圏域で開催しています。

令和7年度の地域ケア会議は、過去3年間（令和4年度から令和6年度）の地域ケア会議において課題として多く挙がっていた「身寄りなし」「孤立」「生活支障」を推奨テーマとして、25か所全ての地域包括支援センターで合計43回開催しました。

このたび、令和7年度の地域ケア会議のまとめとして本報告書を作成しましたので、ぜひ、会議で取り上げられた個別課題、また、そこから抽出された地域課題等にお目通しをいただき、今後の取り組みや業務の参考にしていただけたら幸いです。

目 次

1 令和7年度 地域ケア会議のまとめ ～課題と対策～

- (1) 地域ケア会議の個別事例に含まれていた課題（グラフ） 1
- (2) 地域ケア会議で提起された地域課題と対策・支援策 2
- (3) 事例の分析結果（地域包括支援センターの視点から） 3

2 各地域包括支援センターの地域ケア会議実施報告

..... 4

3 あだち人生いきいき会議の開催状況

- (1) 各事例の検討内容・結果 15
- (2) 会議で検討された課題の概要と生活課題（地域課題の種）の抽出結果 18

4 令和7年度地域ケア会議開催報告・意見交換

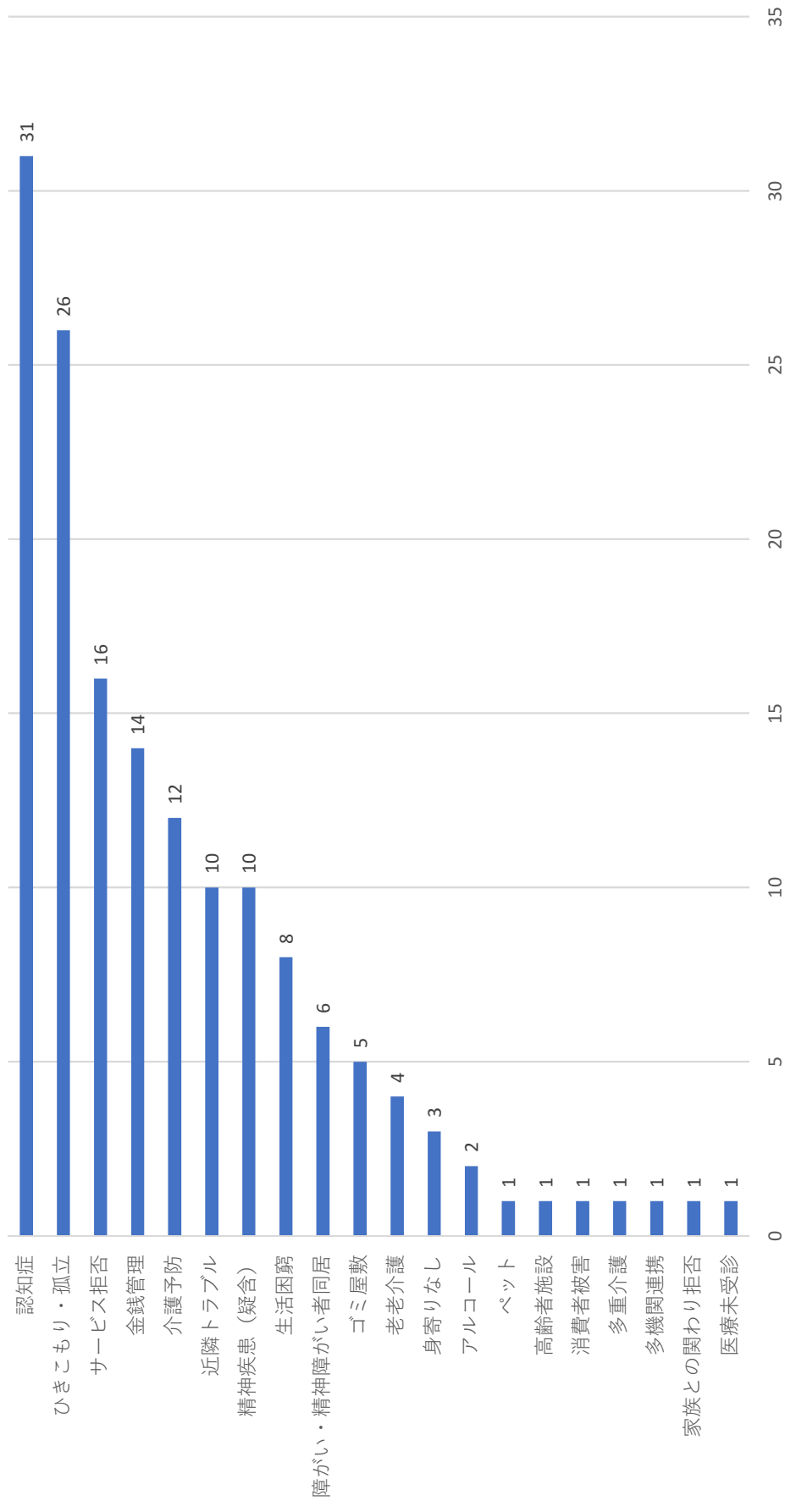
- (1) 地域ケア会議から見えてくる足立区の地域課題について 19
- (2) 意見交換結果 25

1

令和7年度 地域ケア会議のまとめ

～ 課題と対策 ～

(1) 地域ケア会議の個別事例に含まれていた課題



(2) 地域ケア会議で提起された地域課題と対策・支援策

分類	地域課題	対策・支援策
認知症	- 認知機能の低下により消費者被害に遭いやすい - 歩きまわることによる行方不明や、近隣宅への侵入、他人の荷物の持ち帰りといったトラブルの発生 - 免許返納後の移動手段の確保や、やりがいの喪失	- 見守りキーホルダーの活用や、玄関への目印設置による視覚的支援 - 認知症サポーター養成講座を地域住民、警察、小中学校等へ実施し、地域全体の理解を深める 「チームオレンジ」の検討や、本人がボランティアとして活躍できる場の創出
引きこもり・孤立	- オートロックマンションなどでの見守りの死角や、地域との希薄化による異変察知の遅れ 「ひきこもりは恥ずかしい」という風潮があり、相談が遅れる	- 実態把握訪問の実施 「ながら見守り」の普及啓発（商店や公共機関との連携） - マンション向け見守りガイドラインの導入
サービス拒否	- 必要なサービスにつながらない - 本人が地域とのつながりを求めている	- 本人の困りごと（例えば同居家族の受診など）糸口に関係を構築する - 本人の歴史や性格に配慮したアプローチ - 多職種で粘り強く対応を継続
金銭管理	- 公共料金の滞納や、判断能力低下による不適切な金銭使用 - 身寄りなし高齢者の管理を誰が担うのかという役割分担の難しさ	- 成年後見制度の活用や、その前段階としての「じぶんノート」の普及 「ゆるやかな金銭管理」ができる制度の検討や金融機関との情報共有体制の構築
介護予防	- 通いの場の不足。特に男性や現役世代に近い人が利用しやすい場所が少ない - 移動手段（タクシードライバー等）の経済的負担による外出機会の減少	- 社会資源リストの作成と普及 - 有償ボランティアによる車の移動支援の仕組みを検討 - オンラインを活用した自宅での活動の提案
近隣トラブル	- ゴミによる異臭や火災の恐れ - 認知症の症状による近隣への迷惑行為（侵入、窃盗の疑い）	- 隣人宅への宅配ボックス設置協力など、物理的な環境整備 - 地域住民への認知症啓発を行い、見守りの目を増やす
精神疾患	- 相談窓口が明確でなく、家族が精神的に疲弊 - カスタマー・ハラスメントになりやすく、その対応策や相談の受け皿が不十分	8050問題に対応するフローチャートの作成 「福祉まるごと相談課」などの専門部署との早期連携
生活困窮	- 家賃や公共料金の滞納、医療未受診（保険証なし）などの複合的課題 - 経済的理由から必要なサービスを受けられない	- 生活保護や社会福祉協議会の貸付制度の活用提案 - 無料検診の周知や、行政（福祉）との密接な連携
障がい、精神障がい者同居	- 高齢の親が障がいをもつ子の世話を抱え込み、支援者が不在となっている - 家庭内の事情を周囲に相談しにくい認識、風潮がある	- 子の情報収集を行い、精神科の自立支援などの制度活用へつなげる - 親の「老い支度」を並行して進めることで、世帯全体の維持を図る
ゴミ屋敷	- 外部からの介入が困難 - 火災のリスクや近隣住民の健康被害の懸念	防火診断の実施や、チームでの継続的な声掛け、片付け支援
老老介護	- 介護負担の増大による井戸のリスク - 悩みを一人で抱え込み、地域から孤立する傾向にある	- レスパイトケアの案内 - 近隣の通いの場への誘い出しや、見守り活動制度の促進
身寄りなし	- 緊急時の連絡先や判断、手続を担う存在の不在 - 死後の事務手続や金銭管理に関する不安	「おひとりさまの老い支度」をテーマにした学習会の開催 - 国で検討中の身寄りなし高齢者支援の新制度に関する情報収集
アルコール	- 飲酒による生活基盤の不安定化や、医療介護サービスの拒否 - 転居後に既存のコミュニティから切り離されることによる孤立	- 訪問診療や保健師との連携による医療継続支援 - 福祉まるごと相談課の情報共有と、生活の質の維持に向けたアプローチ

(3) 事例の分析結果(地域包括支援センターの視点から)

令和7年度9月末までに開催した29事例を分析した結果

分類	地域課題	課題解決に向けて
認知症	①認知症を正しく知る機会が少ない ⇒ 語解や不安など、認知症の理解が不足 ⇒ 家族関係や地域との関係が希薄になっているため、必要な情報が届かない	①多世代へのアプローチが必要 ⇒ 子どもや若い世代が自然に学べる仕組み ⇒ 認知症サポーターの増加
	②地域からの孤立 ⇒ 当事者が打ち明けることができず抱え込む ⇒ できること、得意なことがあっても活躍したり働く場が地域にない	②認知症であっても就労・社会参加しやすい仕組みづくり ⇒ 認知症の人が関われる仕事づくりへの支援 ⇒ 当事者をサポートするボランティアやコーディネーターする仕組み
精神疾患	精神疾患にも対応できる仕組みが不十分 ⇒ 高齢化した精神疾患患者の増加 ⇒ ホウカツは精神保健領域とのネットワークが脆弱	チームケアの仕組みづくり ⇒ 保険・医療・福祉の連携強化 ⇒ 精神疾患を抱える高齢者の包括的な支援体制
孤立	①地域交流の希薄化	①複雑多様化した問題を抱える家族を孤立させないための早期発見・早期対応
	②転居支援	②高齢者向け物件探しから転居、転居後までのトータルサポートの仕組みの強化
	③未受診	③受診しやすい多様な仕組みづくり